

北海道日本ハムファイターズ戦 医務室から

帯広市医師会
開西病院

佐藤 篤司

日本ハムファイターズが北海道に移転して15年。すっかり道民の球団として根付いており、応援のために球場へ行かれる先生方も多いと思います。私がおります帯広でも「帯広の森野球場」で毎年夏にファイターズ戦が行われます。

帯広の森野球場で日本ハムファイターズ戦が行われる際は、球場の医務室に医師と看護師が控えることになっており、私も医務室勤務をする経験が数回ありました。野球観戦中に具合が悪くされた観客への対応が主な業務です。医務室の他のスタッフとして例年、消防署からボランティアの方が数名来てくださって、球場の観客席を巡回していただきます。具合が悪そうな人を彼らが見つけたとき、ご自分で歩ける方の場合には彼らが医務室まで連れてきて、その後私が診療します。歩行困難な方の場合には私自身が現地までかけつけることもあります。

対応する方がいないときはバックネット裏の控室で待機しながら試合観戦をできるのが、この仕事の役得ですが、医務室を預かる立場で試合を観ていると、眼前に広がる観客席に座っている応援の方々がどうしても目に留まり、彼らが体調を崩さないようにとつい祈ってしまう次第です。ファールボールが出るたびに、どうかあのボールにぶつかる人がいませぬようにと祈りながらボールを目で追ってしまいます。そう願いつつも、ファールボールによる打撲で医務室を訪れる方が多いです。たいていは湿布を持たせて経過を見ていただくことで済みますが。あとは熱中症・脱水の方への対応です。イオン飲料をお渡しするくらいで済む場合が多いですが、時には点滴をすることもあります。まれに救急車で病院に送ることが、他の医師が担当のときにはあったと聞いております。

あるとき、応援団が演奏するトロンボーンのスライド管にぶつかって額に傷を負った幼児が大泣きしながら連れられてきたことがありました。症状的に外傷性脳出血などはなさそうなので、型どおり傷の処置をしてお戻りいただきましたが、処置をしながら、ここでは普段お目にかかれぬシチュエーションの方がいらっしゃるなと思ったものです。

遠方より観戦に来てくださったのに、途中で体調不良となり、このまま観戦を続けるのは難しいと諦めて帰られた方もおり、そういう方に出会うたびに私も気の毒な気持ちになります。

中には具合が悪くなった観客が、医務室があるこ

とを知らずに自分で救急車を呼んでしまうこともあり、救急隊が駆けつけて初めてその方の存在を知ることがありました。救急車を送り出しながら、お役に立てなかったことを申し訳なく思う次第です。

さて、せっかくですから、ファイターズ戦のこともお話ししますね。大谷翔平選手が「野手→投手」のパターンで二刀流をプロとして初めて披露したのは、実は帯広の森野球場が最初です（2013年8月18日）。ちょうどその試合の時に私は医務室に居合わせており、その時は脱水で具合が悪くされていた男性に点滴しながら様子を見ておりました。その間に野手として出場していた大谷翔平選手が8回よりピッチャーとして出ることとなり、それを知った彼の友人が医務室まで知らせにきてくれました。友人からその話を聞いたとたん、その男性はやにわに起き上がって私に向かって言ったのは「先生、急に具合がよくなりました。応援に戻してください。」なんだ、都合のよい病人だなと思いながら、ここは病院ではなく具合が悪くなった方の一時しのぎの場で、基本的には試合観戦にお戻りいただくことが目的なので、「どうぞどうぞ。もしまた具合が悪くなったら、ここに来てくださいね」と笑顔で送り出しました。その男性はその後、医務室には戻ってこなかったもので、無事に大谷翔平選手の二刀流を楽しめたようです。

おまけですが、ファイターズと相手球団の選手たちを間近で見ることができるのもこの仕事のもう一つの役得です。試合後に記者の方々が監督や選手にインタビューしている様子をすぐ隣で見ることができます。特に大谷翔平選手の前述の初二刀流の時は、ファイターズは試合では負けたのに、監督へのインタビューでは相手球団のホークスの監督よりも初二刀流を指揮したファイターズの栗山監督のほうに多くの記者が詰めかけていたのが面白い光景でした。

医務室勤務の立場でいると、早く試合が終わって自分の医務室の仕事も終わりたいと思うのが正直なところですが。それで試合が膠着していると、観客とは別な事情でちょっとイライラしてくることもあります。でも、実は試合がゲームセットになっても、医務室の仕事はまだ終わりません。最後の観客が球場を出たことを確認したあとに私の医務室の勤務がやっと終了します。その時は無事に仕事を終えたことでほっと胸をなで下します。

今年もまた帯広の森野球場で日本ハムファイターズ戦（対千葉ロッテマリーンズ）が8月1日に行われます。多くの観客が来られると思いますが、観客の皆さま全員が最後まで元気に試合を楽しまれることを願っています。